

■これまでの主な意見の整理

No.	項目	主な意見等
1	コミュニティ・スクールの導入	<p>①本年度末の学校評議員会で委員の皆さんに学校運営協議会へ移行していくことを説明する必要がある。【説明】</p> <p>②コミュニティ・スクールと学校評議員会の違いを委員と教職員に理解してもらうことを伝える必要がある。(スライドするだけではない。)</p> <p>【説明】</p> <p>③25校の違いがある状況で一斉にスタートするためには最低限の部分を考える必要がある。【負担】</p> <p>④ハードルを低くして、一斉にはじめられるということに意味がある。【負担】</p> <p>⑤最初から一気に新しいことをやろうとすると、敷居が高くなるのでスタートといことではじめていきたいと思う。【負担】</p> <p>⑥実行するためには、負担も考える必要がある。【負担】</p> <p>⑦学校と地域の負担に配慮が必要。【負担】</p> <p>⑧まずは、学校評議員会を学校運営協議会にスイッチする。実際に動くことを考えると負荷のことも大事。【負担】</p>
2	コミュニティ・スクールの目指す姿	<p>①地域の人にもわかりやすいようにホームページや広報で周知し、イメージを共有することが重要。【周知】</p> <p>②目指すものを明確にして地域住民が分りやすいようにすることが必要。【周知】</p> <p>③学校と地域の融合という趣旨があると一つの利点になる。【学校と地域の連携】</p> <p>④学校と地域の意見を聞いて相互の関係づくりができていくといい。【学校と地域の連携】</p> <p>⑤学校側のニーズと地域のニーズを把握して一方的にならないよう双方の協力が必要。【学校と地域の協力】</p> <p>⑥地域の人が入校に入ってきて活動がはじまるとコミュニティ・スクールが広がっていくと思う。【学校の支援】</p> <p>⑦コミュニティ・スクールの役割が明確になれば、人の繋がりができていくと思う。【コミュニティの醸成】</p> <p>■事例・・・落ち葉拾い集会</p>
3	学校運営協議会の運営	<p>(1)制度方針(案)の修正</p> <p>①学校が困らないように学校運営協議会の開催回数や開催時期などを明確にした方がいい。</p> <p>②制度方針に制度改編の意図や30年度、31年度の具体的な筋道を示す必要がある。</p> <p>(2)ガイドラインの作成</p> <p>①学校運営協議会を運営していくための具体的なガイドラインがあると分りやすい。</p> <p>②学校運営協議会で熟議をしていくためのガイドラインづくりが必要。</p> <p>●委員定数【ガイドラインの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熟議となると30名は、多い。 ・15名でも工夫が必要。 ・標準を小学校10名、中学校15名として各学校において多少の幅を持たせる。 <p>●委員構成【ガイドラインの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会をベースとして、ある程度学校のことをわかっている人を少しプラスするといい。 ・区長に入ってもらいたい。 <p>●委員長【ガイドラインの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長を学校にするのか地域にするのかでイメージが変わっていくと思う。 ・コミュニティ・スクールの学校運営協議会の長は、地域の人の方がいいと思う。 ・学校評議員会の延長線上にあったため学校になると考えていた。 <p>●開催回数【ガイドラインの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回か3回が妥当。各学期で1回、ただし、何か事業を実施する場合は、実行委員会など別に必要。 ・情報交換は必要だが2カ月に1回でも、地域と学校の負担が大きくなる。 ・理解は必要だが、そのための活動をするとなると全体として負荷がかかる。だけど、今あるのをもう少し機能的になるとどうしてもとなくなってしまう。 ・必要に応じて臨時会なども考えられる。 <p>●開催時期・承認時期【制度方針の修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めと中間で意見をいただき、振りかえりとして年度末に開催。 ・開催時期について、学校運営方針の承認は、3月の終わりぐらい。新体制になってからは6月の後半から7月ぐらい。中間は、11月ぐらい。 ・校長が変わって、PTA役員なども新しい人になると方針も変わることがあると思うので4月承認も考えられる。 ・4月初めの開催は非常に厳しい。1日から動いているので承認してもらうことを前提でやることになってしまう。 ・承認を大事にするということで3月。 <p>●事務局【ガイドラインの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局を誰がやるのか、体制を検討することが必要。 ・事務局は、たぶん教頭先生が中心になると思う。 <p>●運営主体【ガイドラインの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールが機能するように地域との関わりを考えて運営主体、長の選出を検討する必要がある。 ・学校長が学校教育方針や年間計画等を示し、活動の協力をお願いしながら地域と学校の繋がりができていくイメージでいくと主は学校になると思う。 <p>●研修【ガイドラインの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンリテーター次第で議論の深まりが違ってくる。熟議を進行する立場の人の研修を保証する必要がある。 ・研修の機会の保証。もしくは、プログラムの提供を検討した方がいい。 ・学校運営協議会の委員になった人たちの研修も必要。 ・PTAの役員や区長が1年で大半交代する。委員のレベルを上げないと形だけになってしまう。 ・委員の引継ぎのシステムも必要。新旧交流会など、委員が変わったときにやることを検討することも必要。

No.	項目	主な意見等
4	学校運営協議会の権限	<p>(1)趣旨には賛同できる ・組織的で前向きな意見であればいいと思う。 ・地域の人たちがどんな先生を求めているのか意見を聞いて把握するという意味であれば、聞いたほうがいい。 ・任用は、教育委員会が対応していくことなので学校現場は困らないと思う。学校現場でシャットアウトすると意見の吸い上げができなくなる。</p> <p>(2)賛同には慎重な配慮が必要 ・価値観も違うし、勘違いされることもあるので、教員の任用に対する権限はないほうがいい。</p> <p>①教職員の人事に関する意見が出た場合の対処が難しい。【任用の対応】 ②意見として聞くことはいいが、対応が難しいと思う。【任用の対応】 ③風土は大事だが権限になると対応が難しいので双方を慎重に配慮していく必要がある。【任用の対応】 ④権限の誤解がないよう分かりやすい記載を検討する必要がある。【記載内容】 ⑤学校組織として求められる人材に関する意見ということが分るようにしたほうがいい。【記載内容】 ⑥最初から上手くいくかわからない。【適切な時期】 ⑦最初は、ハードルを低くしてははじめ、動き出してから少しずつ加えていくほうがいいと思う。【適切な時期】 ⑧学校運営協議会の熟議の状況も考慮することが必要。【適切な時期】</p> <p>■事例・・・文部科学省の手引や他市の規則の記載方法</p>
5	コミュニティ・スクールの財政支援	<p>①特色ある学校づくり事業は、コミュニティ・スクール事業に生かせるものもあるが、それ以外で子供たち学力向上のために使っている部分もあるので全部スライドするのは危険。【学校の意向確認】 ②事務の負担からもまとめてもらった方がいい。【事務的な配慮】 ③補助金は余り分けない方が自由度が増す。【自由度の配慮】 ④大きな枠で持っておいて、分けない方が自由配分できる。【自由度の配慮】 ⑤学校と地域が幅広く子供たちの教育のために頑張るといってお金として検討するといいい。【地域との連携】 ⑥学校と地域の連携の中で出た学力向上のための事業も交付金で実施できるといい。【地域との連携】 ⑦活動を広げるために増額して欲しい。【活動の充実】 ⑧地域協議会がないところも考えて増額した方がいい。【活動の充実】 ⑨地域と学校の連携を考慮した交付金の見直し。【見直し】 ⑩先々柔軟に修正していく必要もあると思う。【見直し】</p>
6	学校と地域の協働活動	<p>①学校の規模によるが生徒数の減少によってPTAなど、今までの活動ができなくなっていく時代。将来的に地域の力は必要になると思う。【地域性・将来的な視点】 ②応時中学校は、コミュニティー連絡会との関わり方を検討していくことになると思う。【地域性・将来的な視点】 ③将来を見据えて検討する視点が必要。【将来的な視点】 ④青少年健全育成会とコミュニティ・スクールの関わりが意味を持つことになっていくと思う。【将来的な視点】 ⑤いろんな集まりの場があって、同じ人が集まっているので精選が必要。【活動の効率化】 ⑥これまでの歴史の中で幾つかの団体や活動があるので調整、すみ分けが必要。【活動の効率化】 ⑦今の活動を整理していけるといい。【活動の効率化】 ⑧自由すぎると何をしたいかわからないので事例をいくつか紹介していくと取り組みやすい。【活動の推進】 ⑨教員や地域の人がイメージしやすいように先進地視察やモデルプランの提示などが必要。【活動の推進】 ⑩コミュニティ・スクールの活動を視察できるといい。【活動の推進】</p> <p>■事例・・・篠岡中学校のSクルーなど関わり方 篠岡小学校区地域協議会のクリスマス会</p>
7	コミュニティ・スクールの制度全般	<p>①実際に動き出すといろいろ出てくると思う。 ②適切な時期に適切な改善をしていくことが必要。 ③まず導入して、何か問題があれば議論する。それを積み重ねていくことになると思う。 ④実際にはじめて、本当に具体的になるといろいろなことが起こると思う。</p>